

第2回総会アピール 自然環境保全と回復に新たな夜明けを！！

本会は創立以来2年、伊賀地域の「水と緑」を考える中、「川上ダム」建設計画は後戻りの出来ない膨大な生態系破壊と木津川上流域の自然破壊を進める元凶となるものだ、との共通認識を得て様々な調査・研究を積み重ね、「川上ダム」建設の「治水上の無意味さ」「環境破壊の大きさ」「利水上の過大さと伊賀用水原価の過酷さ（水道料金の約3倍化）」「ダム直近の活断層を含む大断層帯隠し」「大滝ダムの地滑り責任」など指摘し、流域住民に説明するように要求して来ました。

国交省は、永年の自然破壊の因となってきた「全国総合開発計画」を廃止すると発表しました。又、これまでの「河川整備での河道抑制主義」を改め、「流域対応」を重点としていく方向を明かにしました。当然とは言いながら、これらの大転回は「長良川河口堰建設反対運動」以来広がってきた全国の「脱ダム」を中心とした「自然環境派市民運動」の成果であります。

伊賀流域住民の皆さん、これをバネにして「川上ダム」の建設と関連工事の中止を要求し、木津川上流域の「自然環境回復」と「淀川の水源地」としての「集水域管理」取り組みを協同し、成功させましょう。

新たな夜明けを確実にする為、住民が主体となり粘り強く「行政主導」をはね返しなが、具体策を提案していきましょう。

伊賀地域の皆さん、ダム問題と合わせて伊賀の歴史・伝統・文化・風土・自然等を学び、会員相互が「水と緑」にふれあいながら親睦を深め、人間と自然が共存できる持続可能な社会の実現をめざしましょう。

2005年5月14日

伊賀・水と緑の会（旧：伊賀の水と緑を考える会）